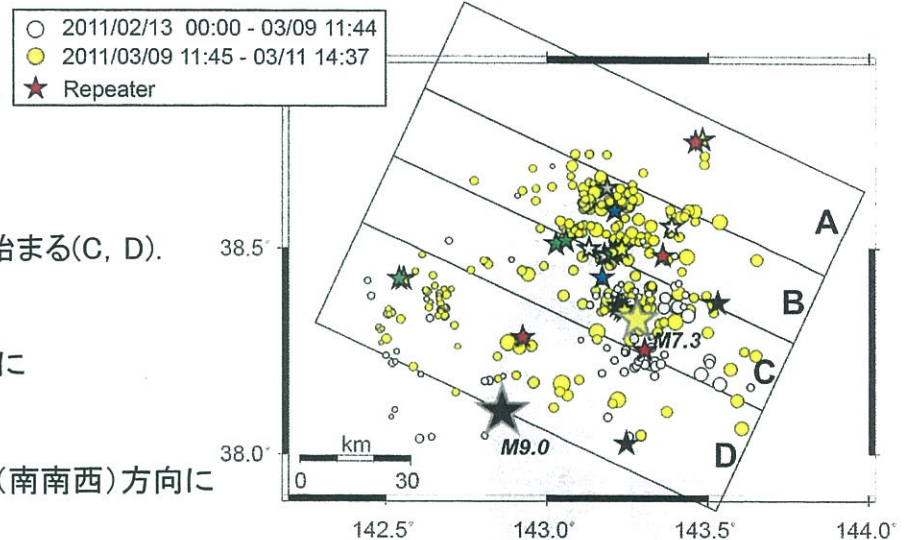


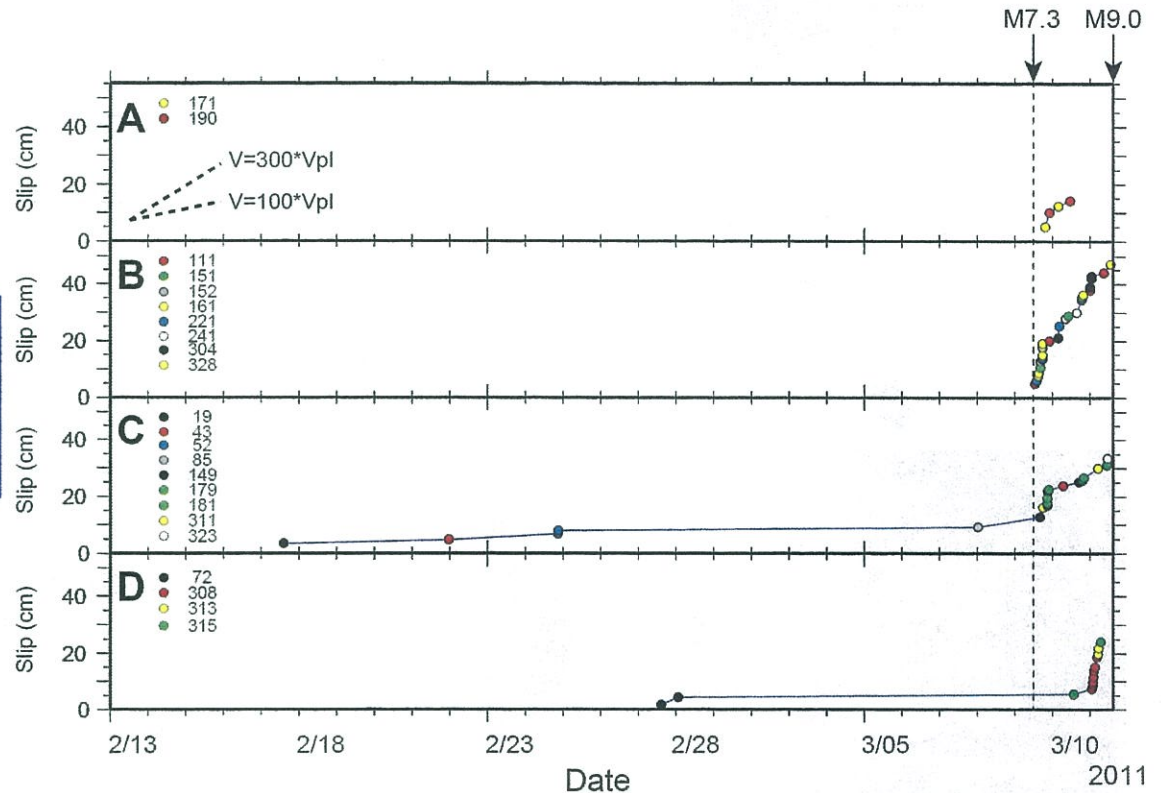
小繰り返し地震から推定した準静的なすべり

【準静的なすべり量の時空間変化の特徴】

- 2月中旬からの震源の移動の際、M7.3の震源域南部ですべりが始まる(C, D).
- M7.3の地震発生後、M7.3の震源域の中部から北部にかけては、余効すべりに類似したすべり量の増加を示し、時間の経過とともにすべり速度は減速する(A, B, C).
- 一方、M7.3の震源域の南部では、準静的なすべりが本震の震央(南南西)方向に伝播するとともに、すべりは直線的な増加を示す(C, D).



M7.3とM9.0の本震震源の間で生じた震源移動をともなう(M9.0の震源へ向かう)準静的なすべりの伝播が、本震発生の引き金になった可能性が考えられる。



※ $V_{pl} = 10 \text{ cm/year}$